







繪本藤れ縁序

九曜文庫

花鳥の序は白くも霞もくらくらとものふ  
 ちの世にあらに色れ中ふぬらうらふらふも  
 ぬき水は波もゆるふけりとなりけりあさ  
 玉らんちやいよく老りとす我國れ至るは  
 源氏物語ふるこまらふらるる一減り露乃  
 まりるに仁義乃道夫婦の妹善提れ縁ふらる



まごころん我のますすことよまかー春秋左氏傳  
と流し此國史也當世のうしり城守の備ふ志は  
其邦は足ていん我は一うふ帰ちめん今免聖人  
乃かんとまのうら又あり今此物徳也、まふ持し  
世の好まらん人れり有の備ふ志をうしり候う所は  
色と好淫乱の人志き學提法すの意と志りどが  
万世乃かかあり然れけ物徳く来ぬとて云ふ我流也

悠遠おれんそまもく心持がうをの人原氏地流の志は  
安てよし今まねありけ一教とそくとよみ持るる  
儒佛神れ學文ありて一生れ情りと心く色し  
せめていゆさくく乃を麗まと愛してそれけとを  
とめんと長谷川氏れ画よふてと繁のほとをけり

述者 方舟子

画工長谷川光信







本 幕



本かりふ  
吹何とす  
管代書と  
ひさしむるに



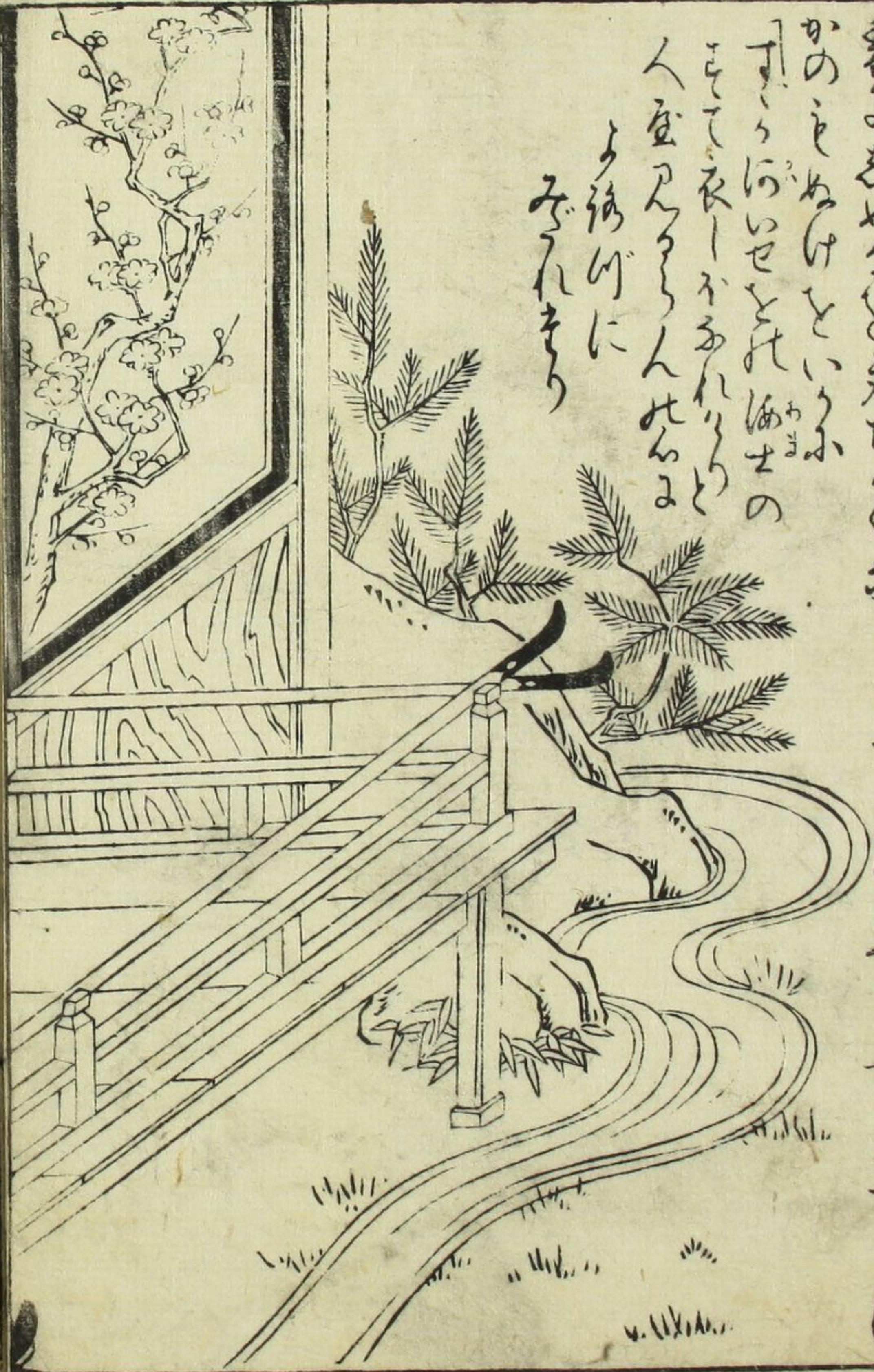
たのるのほれかきひー女まき  
ことく小をきよりーるふげこく  
るれ乃乃  
ののちを  
ねて珠うれ  
者とやうて  
珠うのまを月  
もえあしぬ  
宿かうしつこ  
ちこ人とひさ  
やとせんらと  
いやはと  
女くみんさ  
あしこ  
あり

こののまが  
あし  
こもあひこくれ女のこふ



解元

ふゆせみけ君ハ舞女<sup>いぢぢ</sup>とて老<sup>いぢぢ</sup>君せらふまゝいひま<sup>いぢぢ</sup>をもちこい  
 ずせめてハよりかたりまよこうちこのい<sup>いぢぢ</sup>をい<sup>いぢぢ</sup>に  
 書<sup>いぢぢ</sup>よまわつと身<sup>いぢぢ</sup>らくくあ<sup>いぢぢ</sup>して<sup>いぢぢ</sup>忍<sup>いぢぢ</sup>い<sup>いぢぢ</sup>ま<sup>いぢぢ</sup>り<sup>いぢぢ</sup>女<sup>いぢぢ</sup>さ<sup>いぢぢ</sup>が<sup>いぢぢ</sup>に  
 かのまぬけといふ  
 可<sup>いぢぢ</sup>う<sup>いぢぢ</sup>い<sup>いぢぢ</sup>せ<sup>いぢぢ</sup>と<sup>いぢぢ</sup>れ<sup>いぢぢ</sup>海<sup>いぢぢ</sup>士<sup>いぢぢ</sup>の  
 きて<sup>いぢぢ</sup>衣<sup>いぢぢ</sup>を<sup>いぢぢ</sup>あ<sup>いぢぢ</sup>れ<sup>いぢぢ</sup>り<sup>いぢぢ</sup>と  
 人<sup>いぢぢ</sup>を<sup>いぢぢ</sup>ん<sup>いぢぢ</sup>れ<sup>いぢぢ</sup>よ  
 夕<sup>いぢぢ</sup>陽<sup>いぢぢ</sup>の<sup>いぢぢ</sup>に  
 夕<sup>いぢぢ</sup>陽<sup>いぢぢ</sup>の<sup>いぢぢ</sup>に

















花宴



花の宴はあはれ  
 まよせば花は乃  
 月あさきとくに  
 まよハ海をな  
 光る花の多人は  
 秋ころさで人の  
 切りのあや花月の  
 こゝろゆめはしよのほろい  
 てまよれなむいふたれもあや  
 さこめこころふこほなちほろい  
 花はあふふありあひてふたれを  
 くれそとくさくさく  
 あつさくさくさこの  
 こふまきまき  
 やはら月の中け  
 やいふとあつさく  
 花月のまよれ  
 まよれ  
 まよれ

あふの



花の宴はあはれ  
 まよせば花は乃  
 月あさきとくに  
 まよハ海をな  
 光る花の多人は  
 秋ころさで人の  
 切りのあや花月の  
 こゝろゆめはしよのほろい  
 てまよれなむいふたれもあや  
 さこめこころふこほなちほろい  
 花はあふふありあひてふたれを  
 くれそとくさくさく  
 あつさくさくさこの  
 こふまきまき  
 やはら月の中け  
 やいふとあつさく  
 花月のまよれ  
 まよれ  
 まよれ

浅見のや  
 人のあつさく  
 花の宴はあはれ  
 まよせば花は乃  
 月あさきとくに  
 まよハ海をな  
 光る花の多人は  
 秋ころさで人の  
 切りのあや花月の  
 こゝろゆめはしよのほろい  
 てまよれなむいふたれもあや  
 さこめこころふこほなちほろい  
 花はあふふありあひてふたれを  
 くれそとくさくさく  
 あつさくさくさこの  
 こふまきまき  
 やはら月の中け  
 やいふとあつさく  
 花月のまよれ  
 まよれ  
 まよれ

















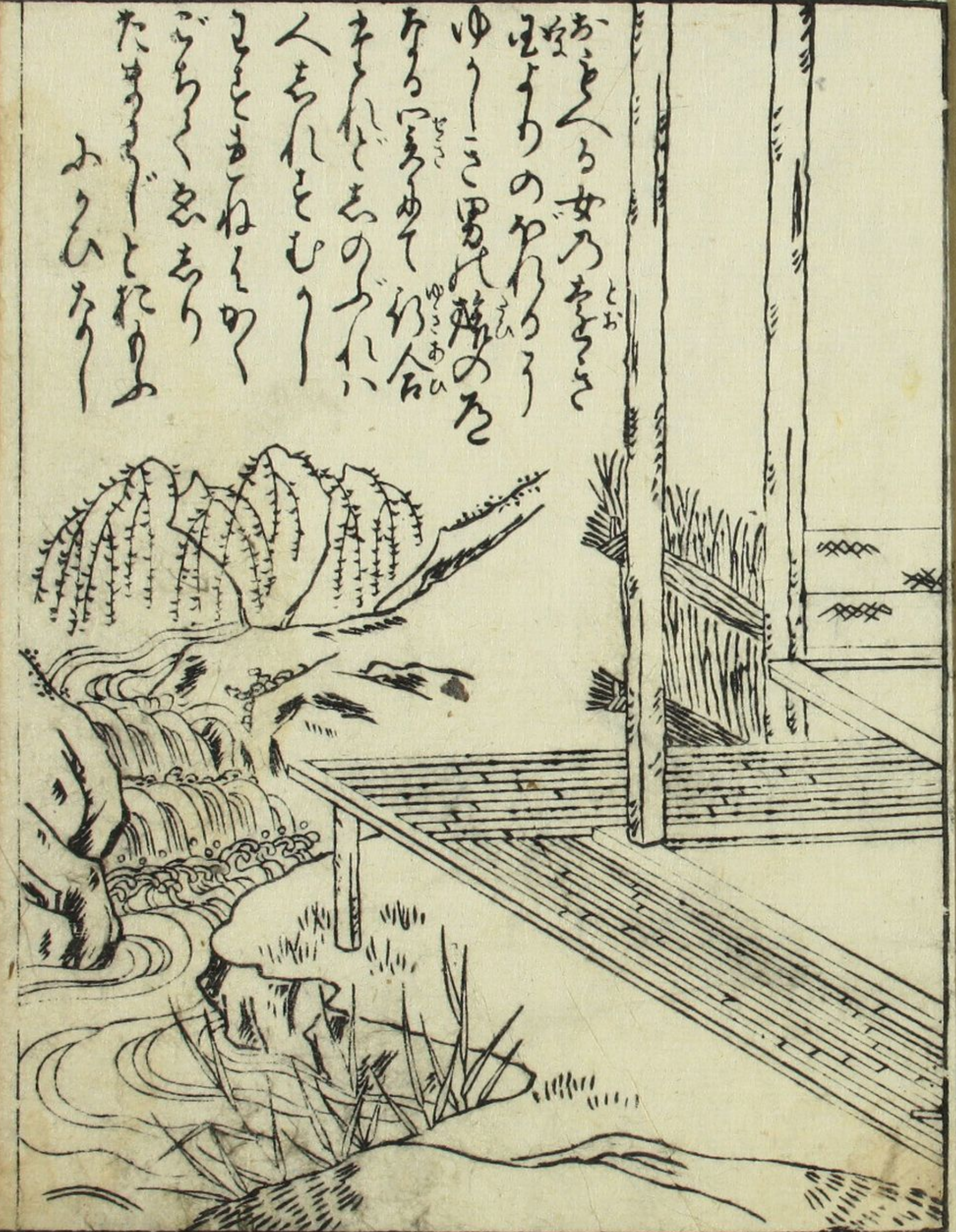


屋冥

けしき  
 せしむる  
 人ばかり  
 けしき  
 せしむる  
 人ばかり



おもむく女乃を  
 けしき  
 せしむる  
 人ばかり  
 けしき  
 せしむる  
 人ばかり





繪合





風松



かきくーゆ  
 舞りー  
 かのこあて  
 松れいきた  
 秘とそくーふ  
 けはとあとの望ふん  
 小夫君とあひひひひて  
 りんーもむー今れれゆー  
 わりー月のあふまかーり  
 ありすくままかれー人のぬ  
 ーかーりそーくーあーぬ  
 あふ小君 けりーにか  
 松れとくーくえぬふれ  
 たりーやーありー  
 せりーとらん

雲とう



光君かれ大井のふ  
 あふーつ縁よりこ  
 きたうーて出立の  
 見ちりーくわらり  
 はずさひ出のふ  
 けく中おれ  
 井しりーをら  
 あとめらり  
 いとうあれて  
 ぬとーかく  
 けてん  
 ちん  
 ちん  
 ちん  
 ちん











































葉裏友

をうくしり

おりやまやうりん

なれも

ぬそくを時乃

まじりしを

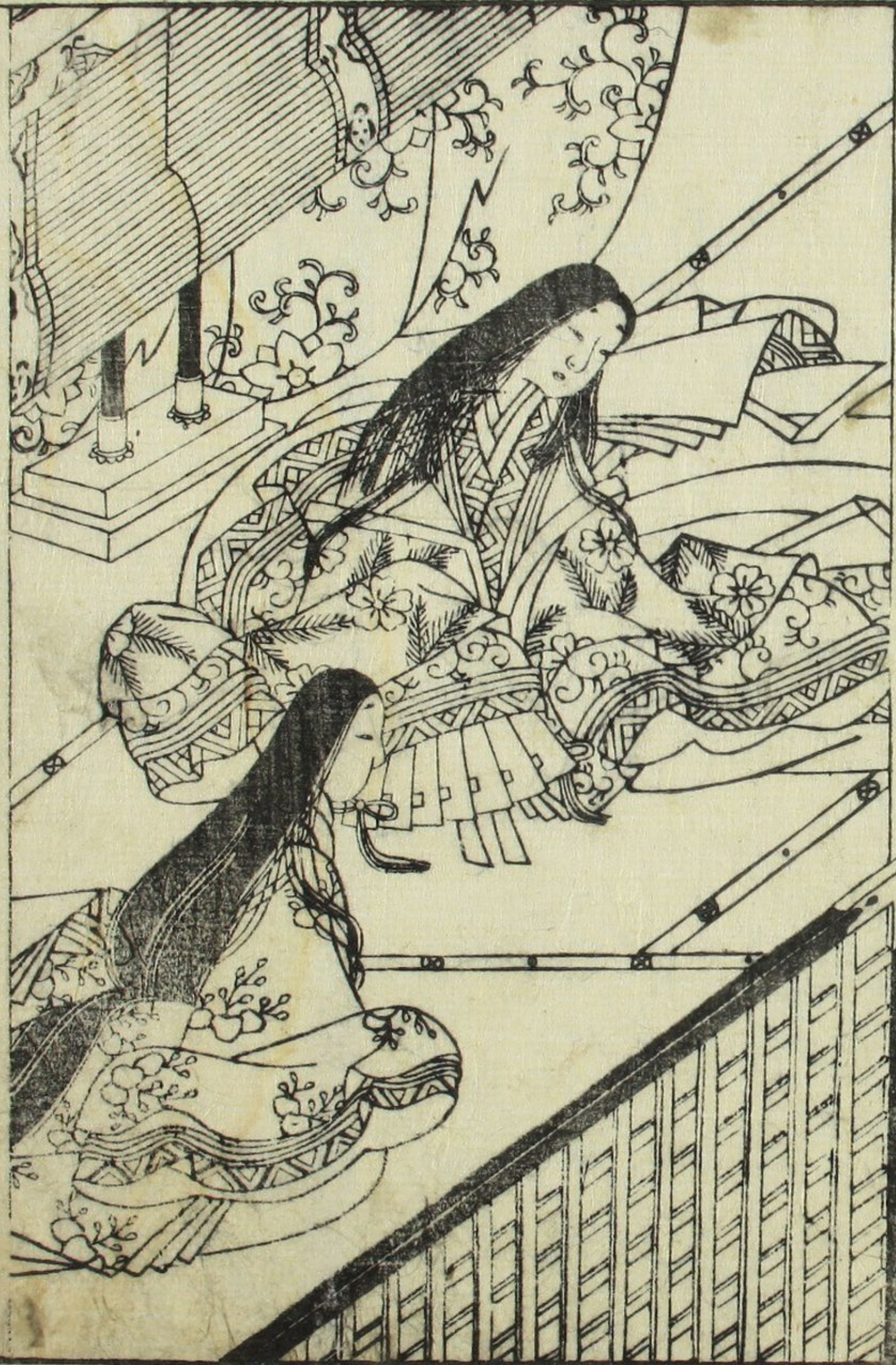
夕さうりれまききののめり  
 ぬゆる恋のの中あれど又か  
 まじりくしこぬれはよぬる海  
 夕けぬいさうしり男なれをほ

わうしり移びゆさあふとけんかひてまけそら  
 どけぬんとしておまんの者乃むのかりうらそれ  
 恥まじりなれこしうせとぬれ中ゆしてぬせうそこ  
 有り家申じのうられとこぬれをそんふらうの  
 こぬまのまじりしを

有りしれん

夕さうりれま

まじり













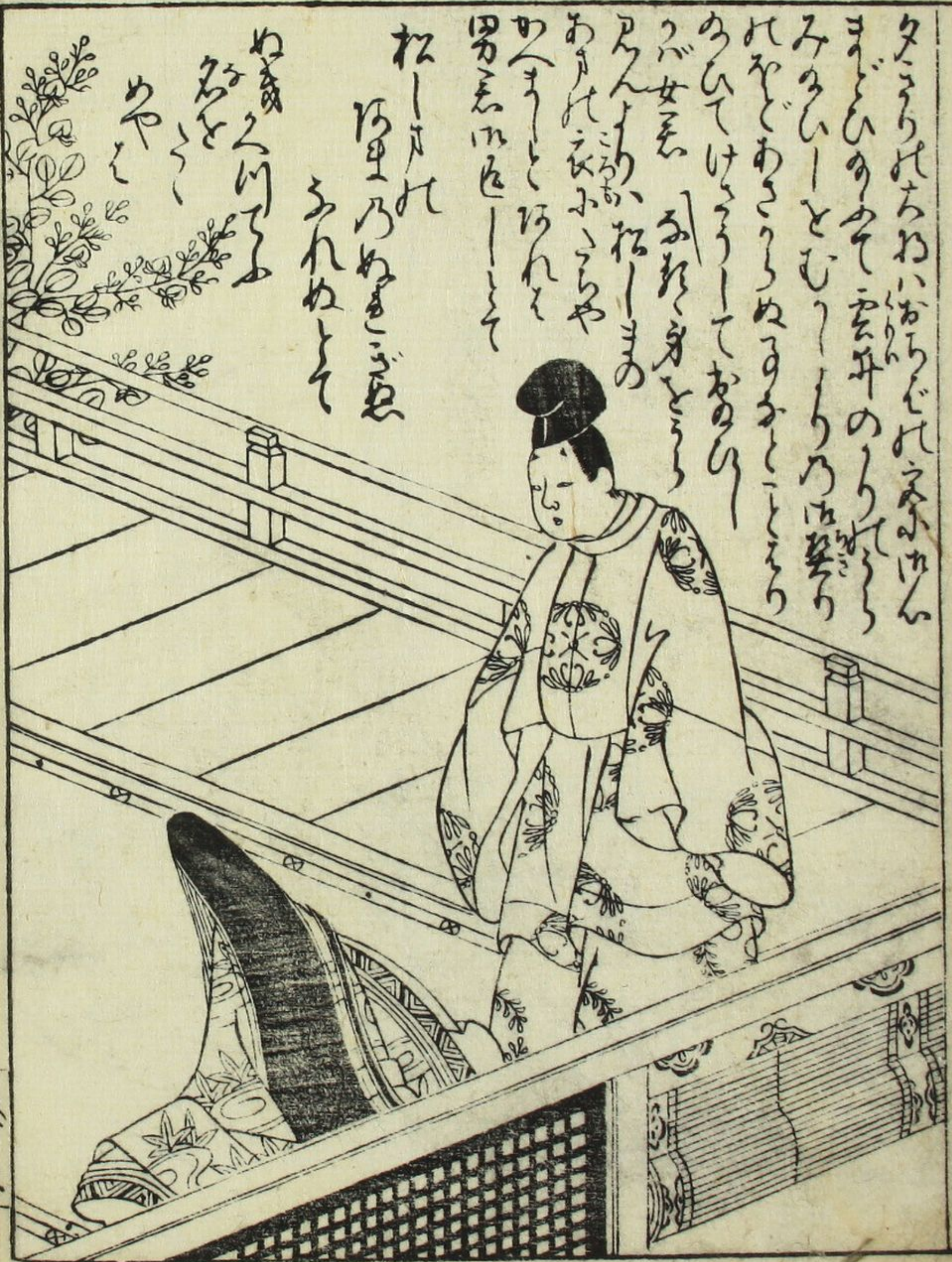








夕亭



夕亭にこれおのいおらむれなきふゆん  
まゝいひあきてまののりてし  
みまひいとむしりりのはま  
れやどあさつらぬるまことそり  
ういてけさうてあひ  
ふん女もふれ身とさう  
あられ衣ふらや  
あまうとあれと  
男まのこ一と

松しられ  
はま乃ぬきこぶ  
ふれぬと

わさ  
なを  
あ  
あ























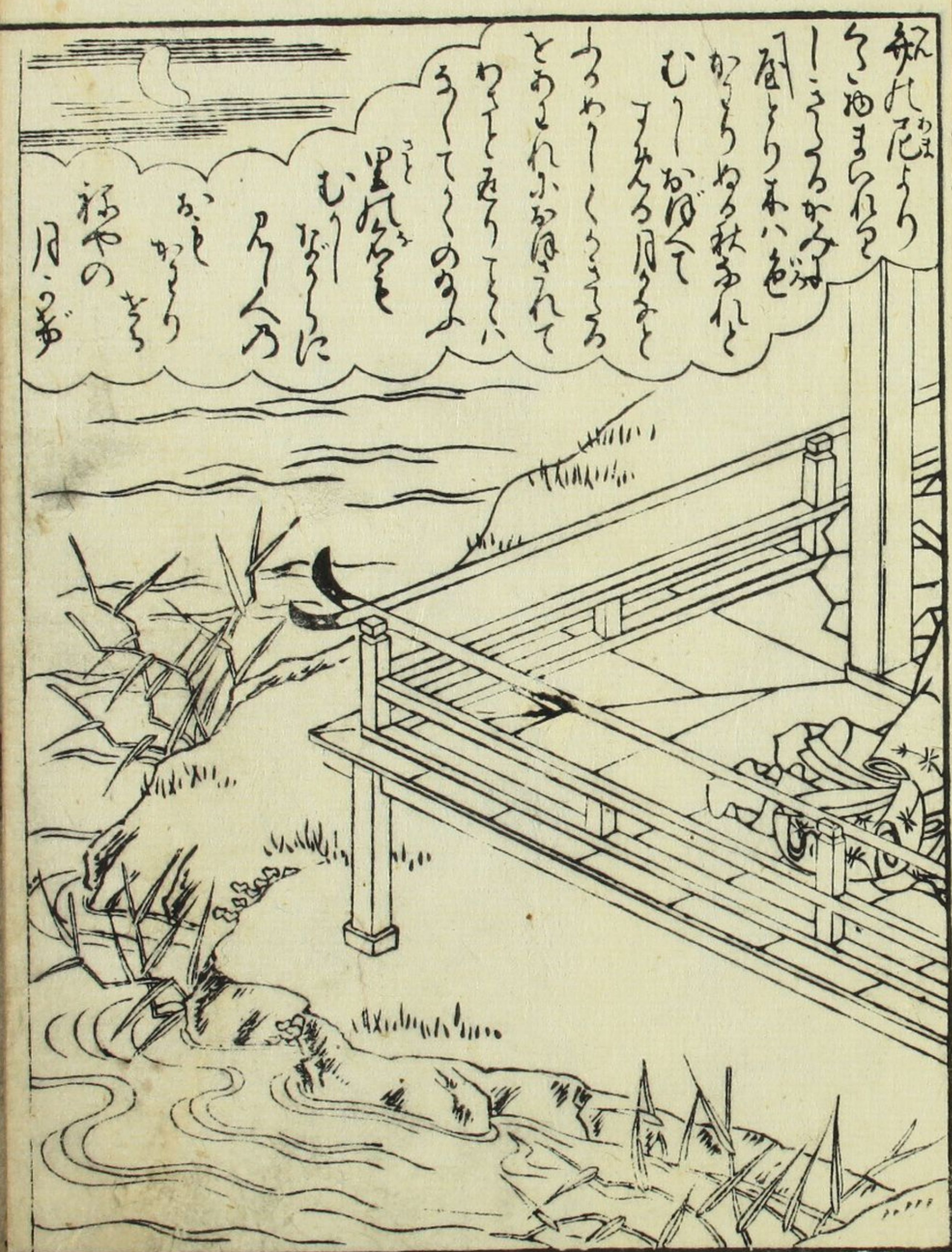




東屋



かゝるれおゆげを乃  
まのうせのいづく  
こころをなかく中れ  
い白まにすこつて  
い今いじういさ  
かへぬやしくわ  
せに大志のい  
しんねのい  
こちのいこの  
や治のと  
まかこた  
こころ  
とやこ  
ありう  
かひい  
ら海  
あいて  
ふと  
い



ねれ  
うま  
し  
何  
か  
む  
つ  
と  
わ  
う  
里  
む  
か  
福  
月













九月にありて厄なきつせり  
りぬのちやひれまもつせり  
とれつたつてをたいとつ  
れをといふもいふ人もあつて  
いふかいなつて女も  
いふかくなつてをたにふれはるる  
いふかくなつてをたにふれはるる  
いふかくなつてをたにふれはるる

消閑雜記 一時軒著 全二冊

此書ハ二部 神道中臣の  
大恩祝の懐紙の書 唐書と  
知る 天の素性 皇國す  
ての古書 訓解 皇國す  
実不教 乃婦人 授大益 有書也

養生主論 全二冊

平の養生主論 養生主論  
養生主論 養生主論  
養生主論 養生主論  
養生主論 養生主論  
養生主論 養生主論

校正 神代卷 全二冊

皇都書房 正寶堂 耕文堂

人相小鑑大全 中本 全一冊

和助 人相 小鑑 大全  
和助 人相 小鑑 大全  
和助 人相 小鑑 大全

故実年中行笈 全三冊

正月 七日 七章 五節 行笈  
正月 七日 七章 五節 行笈  
正月 七日 七章 五節 行笈

都 二壯 子 全四冊

天地 用 解 神 佛 知  
天地 用 解 神 佛 知  
天地 用 解 神 佛 知

神学子教訓抄 全三冊

神学 子 教訓 抄  
神学 子 教訓 抄  
神学 子 教訓 抄

六 角 堂 丁 子 屋 源 次 郎 出 店



